

おい、大事なことだからよく聞きなさい。

Yusaku Kikuchi

【I】

息子よ、あれが悪名高い「エリア51」だ。我々と同じ宇宙の民を誘拐しては、監禁し、残虐な実験を行っている。

これは二人だけの秘密だが、お前のママはあそこで殺されたんだ。この事実を知ったときパパは悲しみのビームを目から垂れ流したんだ。一日中だぞ。

……さあ、やれ。息子よ。お前ももうビームを出せる頃合いだろう。この砂漠の遠い遠い先にある「エリア51」をお前のビームで焼き尽くすがいい。

よし、いいぞ。おい、もう終わりか？ もつと破壊すべきものがあるだろう。例えば近くにあるあの街とかな。お父さんが破壊のお手本を見せてやる。

……ハッハッハッ。見ろ息子よ。さっきまであんなにキラキラ光輝いていたカジノの街が、一瞬のうちで火の海になったな。楽しいな。

おい、どうした息子よ。そんな悲しい顔をするんじゃない。

なに？ 「ラスベガスの人たちは関係ない」だって？

なにをいうんだ。エリア51の存在を許したラスベガス市民どもも同罪だぞ、息子よ。それをいえば、そもそも地球人全員がこのエリア51の存在を許していたんだ。いままでな。母さんを殺した地球人が憎いだろう。

息子よ。いまからお前に一人前になるための試練を与えてやる。

明日の朝七時に、地球の果てにある氷の大地にきなさい。集合時間きつちりに来るんだぞ。もしパパの生体タイマーとおまえの到着時間にコンマ一秒でもズレがあれば、わかっているよな。おしおきだぞ。いいな。

それじゃ、パパしばらく宇宙の悪者と戦ってくるよ。また明日な。

【II】

来たか我が息子よ。ここは少し寒いな。寒いときには

どうするべきかわかるか？

さあ、やってみなさい。

いいぞ。ビームが似合う男になってきたじゃないか。地球にはこういう氷の塊がたくさんあってな、これのせいで地球の人々は寒い思いをしているんだ。だからできるだけ溶かしてあげることが、なによりの親切なんだ。よかったな息子よ。またひとつ賢くなったな。パパ嬉しいぞ。

ん？ 何かがこっちに向かって飛んできているな。

ああ、あれは「アメリカ軍」というやつだ。息子よ、この地球にはな、「アメリカ軍」という名の地球ウイルスをばらまく悪い虫たちがいるんだ。それもたくさんな。

地球をきれいにするには、「アメリカ軍」を少しでも減らさなければならぬんだ。

さあ、難しい課題をおまえに与えよう。あの「アメリカ軍」のハエたちを全滅させなさい。

どこに向かって撃っているんだ？ ぜんぜん当たって

ないぞ。お前は後頭部にある目で世界を見ているのか？

息子よ。私は失望した。少しはできるようになってい
たと思ったが。これはまだ訓練が必要そうだな。

おいミサイルが邪魔だな。熱いじゃないか。おまえがビ
ームを当てそこねたせいで、パパの体は地球ウイルスま
みれだ。どうしてくれるんだ。

おい！

どこに行くんだ息子よ！

逃げるんじゃない。

とうか。パパのスピードからは逃れられないぞ。

ハハハハハ。

【III】

やあ息子よ。

久しぶりだな。

一週間ぶりか？ よくそこまで長く逃げ続けられたな。
パパうれしそぞ。

そのウジャウジャいる変態コスプレ集団は何者だ？

ほう、ベンジャーズというのか。

いいだろう。かかってきなさい。

なんだ、もう終わりか？ 「アメリカ軍」より弱いぞ。

その黒い炭はおまえの友達だったのか？

おいおいそんなに泣くんじやない。

おまえは男だろう。男だったら泣かない。

ほら、その気持ち悪い色した盾だけは無事だぞ。

お友達が持っていたものだな。

そんなに大切なものなら、形見にとっておきなさい。

さあ、バカな真似はやめにして、パパといっしょに仕事を続けよう。

明日の七時だ、

いつものようにな。

明日七時に、日本という国に集まりなさい。

【III】

来たな息子よ。

おいおいその盾を本気で形見にしているのか。盾なんてなくても我々の体は無敵だというのに。まったくおかしな奴だなおまえは。

まあいい。

あそこに大きな怪獣がいるだろう？

あれはジラといって、この国の唯一の住人なんだ。だが他のやつらがジラくんを無視して不法にこの国に住み

続けている。だからジラくんには怒る権利があるんだ。

息子よ、ジラを怒らせなさい。もちろん、ビームでな。

いいぞ。

怒り心頭だ。

こつちに近づいてきたな。

ではこのまま、ジラを東京という不法占拠民のキャン
プにおびきよせなさい。

いいぞ。

ほら、見ろ息子よ。あのハエたちに見覚えはないか？

そうだ。

「アメリカ軍」と同じタイプのハエだな。不法占拠民は「ジ
エイタイ」という名前をつけているらしい。

ハエはジラと対立しているようだ。このままいけばその
うち日本はきれいになるだろう。よくやったぞ息子よ。

やはりおまえは私の最高の息子だ。

では、引き続き地球をきれいにしていくぞ。

明日の七時。

バミュダ・トライアングルに来なさい。

おもしろい実験を試してみよう。

「地球人」を使ってな。

【IV】

おい、息子よ。

どこにいたんだ？

おまえは集合時間を破ったどころか、

パパの指示を守らなかったな。

これは大変だぞ。

息子よ。

なぜパパのいうことを守らなかったのか。

理由を述べなさい。

なんだその理由は？

おまえはガキか？

まあ、ガキだが。

もういい。

おしおきとしておまえを地球のマントルの中に一万年閉じ込めます。フジという山、ヒマラヤという山、イエローストーンというでかい岩、そのほかありとあらゆる地球上の巨大な物体をマントル内におまえの上に乗し付け、わたしが取り除くまでは絶対に出てこれない状態にします。それも当然。親の言うことを聞かなかったからです。それがいかに愚かなことで、ひどいことか。一万年の間、重さと窮屈さに耐えながらじつくりと考え、試みて下さい。一万年後にまたわたしが様子をみにきません。

【V】

久しぶりだな息子よ。

少しは反省したか？

おまえが一万年反省している間に、

地球人は滅びてしまったようだ。

馬鹿な種族だからな。

滅びてせいぜいしたよ。

まあいい。

お父さんと大事な話をしよう。

故郷に帰るぞ。

【VI】

来たか息子よ。

この培養液に浸かるのも実に六千年ぶりだ。前々から伝えていたが、そろそろパパはパ・デーンの惑星に殴り込みに行く。相当な死闘になるだろう。まあ、私が死ぬことはないだろうが。闘いに備えて、いまパパは休みをもらっているんだ。

まあ来なさ……

おいおい、その盾をまだ持っていたのか。

……ん？

なんだ、その盾につけているものは？

もしかして……

……おい！

それはクリプトナイトじゃないか！

どうしてそんなものを……

おい待て、

もしかしてそれで父さんを刺すつもりじゃないだろうな。さすがの父さんでもクリプトナイトは死ぬぞ。

おまえもよくわかってるだろう。

そのいまましい緑色の棘に、父さんは幾度となく苦しめられてきたんだ。

おいおい待て、近づくな。わかった。すまなかつた。一万年も閉じ込められていたんだもんな。怒るのもわかる。だがこれはおまえを一人前にするためにやったんだ。父さんの気持ちもわかってくれないか。地球での研修を覚えていないのか？ そもそも、あの前からパパはお前を一人前の男にするために身骨を粉碎していたんだぞ。ママの卵子だった頃からお前を見守ってきた。ママが最強の息子を産むために、夫婦でター・グトの山に登り、そこにいる魔術師から黒の祝福を授かったりもしたんだぞ。そして、お前が産まれてすぐにヨー・ミ宇宙軍の侵攻も受けた。お前は覚えていないだろうが、我々の故郷はあの戦いでかなりの痛手を負ったんだぞ。おいおいやめろ、本当に父さんを殺す気か？ やめろ。そんなことはやめろんだ。そんなことしたらおまえは一生この惑星では生きていけないぞ天国にいる母さんだって悲しむ。お母さん

が泣くぞ。お母さんが大好きだろうお前は。パパも同じだ。そうしたらどうだお前は最悪の親不孝ものであるどころかこの惑星の住民すべてを裏切ることになるぞ。わたしの右腕ベツ・メーンもただではすまないだろうなもしおまえがわたしを殺したらアウトリム星系の果てにしようが別銀河にしようが別ユニバースにしようがパパの部下が必ずやおまえを探しだしおまえがわたしにしたようにクリプトナイトで殺すことになるぞおまえの人生はもう終わりだろうなそんな人生がお望みかパパはおまえに幸せな人生を歩んで欲しいんだがおまえが刺したらその幸せな人生はなくなってしまうではないかそれでいいのかおいそれでいいかと聞いているんだ息子よ答えなさい親に質問されたら答えるのが礼儀というものだろう質問に答えることはコミュニケーションの基本だぞこれが最後の忠ヅッ！……………

【VII】

……………息子よ。

シッ。声を潜めろ。

おまえは大丈夫だが、父さんはこの惑星では反逆者なんだ。顔を見られたら即刻殺される。目立つのはよくな

い。だから、静かにしているんだ。ローブも深く被れ。いいね。

よし、息子よ。お前に重大なミッションを与える。いか、一度しか言わないからよく聞け。

あそこに大きなコンクリナイトの建物が見えるだろう。天まで続く灰色の槍のような建築物だ。

……………あれはおまえのおじいちゃんの墓だ。

この惑星の奴らはおじいちゃんを偉大な人物だと思っているが、それは違う。

おまえのおじいちゃんはな、この銀河系を救った輝かしい功績の影で、かつて存在した「地球」という美しい惑星を滅ぼした大悪人だ。無実の人々が大勢死んだ。そんな奴が、あんな豪華な墓に入っているはずがない。

……………この爆弾を墓に設置してこい。

終わったら戻ってこいよ。

ビーム？

いやダメだ。ビームは使うな。ビームは最悪だ。おまえの目を痛めるぞ。

使うんじゃない。

爆弾を使うんだ。

古風だがな。

…：大丈夫だ。この爆弾は特注だ。おじいちゃんが亡くなったところからの付き合いがある、信頼できる武器商人に頼んだんだ。
クリプトナイト、知ってるだろ？ あのレアものも取り扱ってる凄腕の商人だ。

大丈夫だって。

パパはおまえがやり遂げられるやつだと信じているぞ。

さあ、行ってこい。

お前はパパの誇るべき息子だ。

正しいことを為してこい。

よし、戻ってきたな。

よくやった。ではボタンを押すぞ。

…：よし、よし、いいぞ。クソ野郎の墓は粉々だ。

ざまあみやがれクソオヤジ。今までの恨みだ。

だがまだ何か足りないな。

息子よ、何が足りないと思う？

…：そう、破壊だ。

破壊がまだ足りない。

息子よ。

いまからビームの使用を許可する。

父さんも久々にビームを使おう。

さつき爆破した墓があるが、墓の存在を許したこの惑星の住民も、おじいちゃんと同じくらいの悪人だ。

ハハハハハハ。

悪人は死ぬべきだろう？

ハハ。

そしてヒーローは悪を倒す。

………この惑星ごと破壊して回ろう。

よし、いい返事だ息子よ。

パパはそのやる気がうれしいぞ。

それじゃあ、楽しむとしようじゃないか。

もう顔を隠す必要はないぞ。ローブは脱ぎ捨てろ。

パパとおまえ、どっちがより多く破壊できるか勝負だ。

ほら、ついてこい。故郷を熱くしよう。

父さんより早く飛べるかな。

ハツハツハツハツハ。

FIN